

## 教材・支援機器活用実践事例

### 【弱視児童が正確に計算（筆算）ができるための支援】

	実施年度	平成29年度		
授業について	教科名等	算数		
	単元・題材名	小数のかけ算		
	授業における教師のねらい	○教材を活用することで、児童が計算を正確にできるようにするとともに、自信をもって、計算することができるようにする。		
	授業における子どもの目標	○小数のかけ算の筆算の仕方を理解し、正確に計算できる。		
子どもについて	学級・学校・学年	特別支援学校 小学部 通常の学級 6年		
	対象の障がい (種別・診断名等)	視覚障がい (弱視)		
	授業形態	個別学習		
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	<p>○整数の四則計算は理解できているが、見え方の状態により、筆算を書く際に、位がずれてしまい、計算ミスをすることが多い。</p> <p>○書き記した文字がごちゃごちゃして見えてしまうことで、計算する場所を間違えてしまうことがある。</p> <p>○小数の計算において、小数点を見落としてしまうことがある。</p>		
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	<p>筆算盤</p> 	<p>計算結果</p> 	<p>横から見た図</p> 
	活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆算を行う際に、縦の位を合わせて書くことで、誤計算を防ぐ。また小数の計算において、小数点の位置を把握できるようにし、答えの位取りが正しくできるようにする。</li> <li>文字タイルを利用して表示することで、立式から見直しまでを一人で行い、自信をもって計算できるようにする。</li> </ul>		
授業における支援 ・教材の配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の準備段階で、いつでも使用できるように机の横に置いておく。暗算でできないときのみ使用する。</li> <li>タイルは通常と白黒反転の2種類を準備し、本人が確認しやすいように色分けをして扱うようにした。</li> <li>文字のフォント・サイズは本人と見えやすさを確認し、丸ゴシックM太字24ポイントを使用した。</li> <li>筆算盤の範囲がわかるように、外枠にマグネットを取り付けた。</li> <li>取り出しがしやすいようにタイルは枠よりも少し浮くように設計した。</li> </ul>		
子どもの変容や評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>暗算で難しいときは、積極的に利用し、計算ミスが少なくなった。</li> <li>式と途中の計算、答えのタイルの色を変えることで、計算している場所を自分で確認しながら計算することができるようになり、正確な計算ができるようになった。</li> <li>小数の計算に限らず、大きな数の計算でも自分から利用する様子が見られた。</li> <li>マグネットの棒を利用して、割り算でも活用していた。</li> </ul>		